

比較に次ぐ比較！

SNS vs ツイッター
川上・巨人 vs 原・巨人
マシソン買っ？借りる？

大人のくちくちるる大事典

週刊ポスト編集部編
絶賛発売中！！定価945円(税別)
978-4-06-379815-0
小学館

き起こしてメモにする。「これはオフなんで絶対に表に出さないでください」と注意して上司のキャップに「メモ上げ」する。キャップは「わかった」といいながら、同様にデスクに上げる。デスクは政治部長に上げ、政治部長は編集局長に上げる。

建て前上はオフレコだが、こうしたメモを元に政局記事は書かれている。

さらに、国民にはわからないところで、このメモはもうひとつ別の使われ方をしている。

メディアの幹部たちは、野党も含む各現場から上がってきた膨大なメモを、官邸に「上納」するのだ。最近ではメモもデータになっているから、転送も簡単だ。

自民党政権時代の官邸関係者が証言する。

「官邸は、機密費で各新聞社の幹部からメモを買っていました。新聞社側からのメモを集約するのは、毎日の日課です。カネを支払うペースははっきり決まっています。1か月に1回ぐらいでしょうか。食事をしながら、情報の対価として機密費から100万円程度を渡していました」

かわいそうなのは現場の記者たちだ。官房長官も副長官も、記者がこっそり作った（と思っている）メモをそのまま見ている。「オフレコ」（オフレコの懇談会）といいながら、実際には録音されることを見越して、観測気球を上げたりもするのである。

また、これらのメモは官邸にとって与党の各派閥や他党の動向を知るうえで格好の材料となる。たとえば、与党内の反主流派が語る「政権批判」の言葉が一言の漏れもなく記されている。たとえば、官邸内でしか知り得ない情報を野党の幹部が自慢げに語る様子がつぶさに綴られている。

官邸側はこうした情報を把握しておくことで、反主流派の動きに機先を制することができる。また、複数の人物のメモを見ることで、重要情報が漏れたルートをあぶり出すこともできるのだ。

「Nシステム」という仕組み

この恐ろしくよくできた仕組みは、誰よりも徹底して情報収集を行なった官房長官の名字を冠して「Nシステム」と呼ばれている。ちなみに、かつては「Gシステム」と呼ばれていた。メディアの幹部たちと機密費の関係はそれだけでは

各記者クラブメディアからひとりずつ、総勢10人ほどが参加する、編集委員懇談会が、不定期で開かれている。官房長官を囲んだ、各社幹部を集めたクローズの食事会だ。この帰り、官房長官の地元の名菓などが、お土産で各社に手渡される。中には、お車代が入っている。これもかつてはひとり100万円が相場だ

だ。

さらに、メモを見れば、どのメディアがどういった取材を進めているのかも手に取るようにわかる。記者は結果的に、官邸の情報収集係を務めているわけだ。

たと、ある秘書官は証言する。

新聞・テレビは、上層部ほど、機密費の毒に冒されているのである。

しかも、この毒に冒された者たちは同調者を求めていく。機密費を受け取った人間が、ある日、社内の後輩記者と食事しながら、囁く。「大変だろうから、お小遣いひとつとして」。上司のポケットマネーかと思っ

夫だから」と率先してもらうことで、部下たちも受け取らざるを得なくなる。

そして、いつしか「メモ上納」の風習などが、下の代にも引き継がれていく。さながら中学校で不良の先輩が後輩にタバコを教えるようにして、メディア全体に「共犯関係」が形成されていくのだ。

その点では、官邸側も余念がない。若手の記者時代から、まずは食事をおごり、ゴルフに連れていき、野球の観戦チケットをあげるといった簡単などころから始め、何かの機会に1万円でも現金を受け取るように仕向け（この場合の名目は、お車代でも情報提供でも何でもい）、あとは順々とステップを踏んでいく。

前号でも述べたように、官邸側は転勤や結婚、出産、新築などさまざまな折に5万円や10万円といった現金を渡す。総理外遊の際には、随行した官房副長官などから番記者へお土産代として現金を配る。なかには断わる記者もいるが、社によっ